

<フィリピン・リサーチ・レポート>

情報提供用資料

2024年5月22日

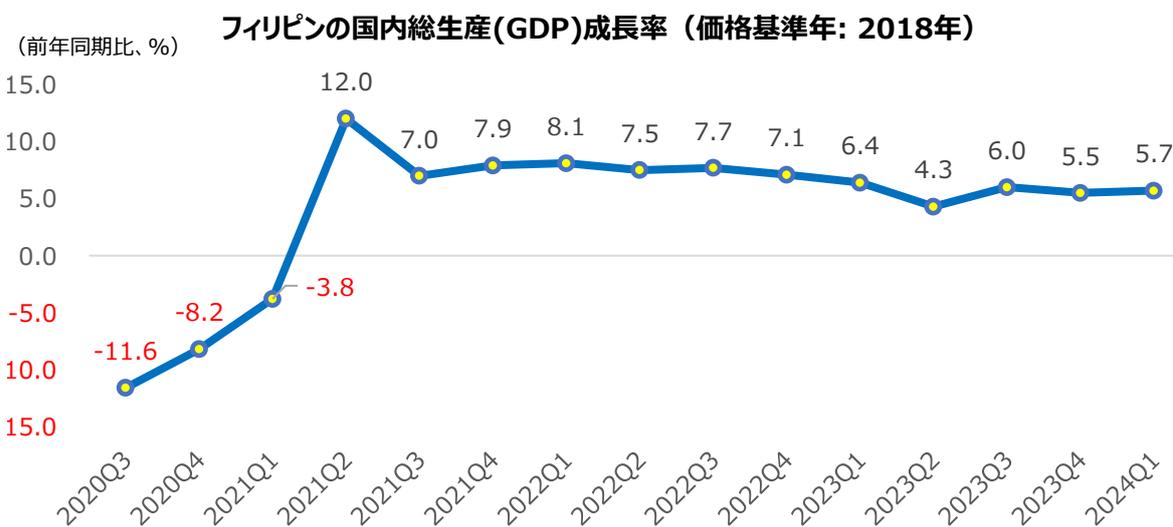
フィリピンの2024年第1四半期GDP成長率

フィリピン統計庁（PSA）によれば、2024年第1四半期の実質国内総生産（GDP）成長率は前年同期比5.7%となった。ブルームバーグによる事前予想の中央値（5.9%）を下回ったが、2023年第4四半期の5.5%（修正後）を上回った。同国経済が高成長を継続していることが確認された。

第1四半期の成長に貢献したのは、金融業で前年同期比10%の成長率であった。商業（卸売/小売業/自動車・オートバイの販売・修理等）は同6.4%、製造業は同4.5%の成長率であった。主要な経済部門では、農林水産業の成長率は同0.4%と緩やかであったが、製造業等鉱工業が同5.1%、サービス業が同6.9%とそれぞれ高成長を示した。

需要側では、家計の最終消費支出が前年同期比4.6%増加した。さらに、政府の最終消費支出が同1.7%増、総固定資本形成が同1.3%増であった。なお、商品・サービスの輸出が同7.5%増と成長に貢献した。輸入は同2.3%増であった。

開発予算調整委員会（DBCC）は現在の国内および世界的な状況に基づいて、2024~2025年のGDP成長率目標を4月に修正した。DBCCでは2024年のGDP成長率目標を、以前の6.5~7.5%のレンジから6~7%のレンジへと下方修正した。2025年については、以前の6.5~8%から6.5~7.5%へと調整した。



出所：フィリピン統計庁（PSA）

以上

免責事項

当資料は、情報提供を目的として、キャピタルアセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAMが運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。